



「花語らず」 元南禅寺管長 柴山全慶老大師
 花は 黙って咲き 黙って散っていく
 そうして再び枝に帰らない
 けれども その一時一処に
 この世のすべてを託している
 一輪の花の声であり 一枝の花の真である
 永遠にほろびぬ生命のよろこびが
 悔なくそこに輝いている

實相寺 花園会報

令和二年

六月一日発行

発行所

臨済宗妙心寺派

陽明山 實相寺

實相寺花園会

〒761-0450

高松市三谷町

1811番地1

TEL087-889-3838

編集発行人

山本文匡

<http://www.jissouji.net>

第134号

「第39回通常総会の結果報告」

4月中旬郵送にて議案書を送付させて頂いておりましたが、投票期限である5月10日迄に96通のご返信がありました。内、押印が無いもの4通、賛否が示されていないものが3通ありましたが、89通の賛成を得て原案通り可決したことを御報告致します。皆様、慎重なるご審議、有難うございました。なお遅くなりましたが、去る4月19日午前10時より、住職及び役員若干名にて小施餓鬼法要を執り行いました。



おすすめのYouTube動画

最近テレワークや遠隔授業が急速に広まりましたが、仏教界でもYouTubeの活用が顕著です。そこで皆様におすすめのチャンネルをご紹介します。

1. 【鎌倉】円覚寺

横田南嶺管長が詩や俳句を引用して短い法話を定期的に説かれています。

2. Shizuka Sasaki

花園大学の佐々木閑先生が学生への授業を兼ねて、一般の方にも解りやすくお釈迦様の教えを説いています。



【一口法話】第五回「タンポポのように」 臨済宗円覚寺...



ブッダの生涯 1 (佐々木閑 「仏教哲学の世界観」第2...

「お寺の現状について」(4)

これまで三回にわたって、未来のお寺や教団が「こんな風になれば良いな」という住職の個人的意見を申し述べてきました。しかしそれがはたして実現可能かといえば、いみじくも2月の議会で栗原総長が「先ほど山本議員が夢を語ってくれましたが」と仰った通り、残念ながら難しいと言えます。

なぜ難しいのか？様々な要因がありますが、最大の理由は昭和26年に施行された「宗教法人法」で、各寺院が個別の宗教法人として定められたことでしょう。戦前の「宗教団体法」は国家が教団を取り締まる法律でしたので、教団内部の運営はそれまでの慣習など、各本山に委ねられていました。

しかし現在のお寺は一軒一軒オーナーの異なるコンビニ店の様なものです。フランチャイズとしての規則はありませんが、経営は独立していますので、売上の少ない店に本部から店長がやって来たり、他店の利益から赤字が補填されたりすることはあります。一方で、自由度はコンビニとは比較にならないくらい高く、比喩的に言えば、陳列されている商品も価格も千差万別です。

つまりお寺は全国どこでも同じサービスが受けられるユニバーサルサービスでは無いのです。だったら、より内容が充実していて負担の少ないお寺が望ましい、と思うのが人情ですよ。

私自身、専門道場を出てから少しの間、都内のお寺で書生をしましたが、

そのお寺では著名な講師の法話会をはじめ、毎日のように様々な催しが開催され、お施餓鬼には数百人もの参拝がありました。ご住職も立派な方で、お布施等には全くこだわらないお人柄でしたので、「どうせ檀家になるのなら、誰だってこんなお寺の方が良いよな」と思ったものです。ちなみに毎月『花園』誌をお送りするようになったのは、このお寺での経験に由るのですが、正直「とても實相寺では真似出来ないな」とも感じました。

以来、若い頃は小さなお寺が幾つもあるより、大きなお寺一つにまとめた方が、僧侶だって檀家さんだって幸せなんじゃないか、と考えていました。

その考え方が変わったのは、40歳前

後でしょうか。布教師として全国各地のお寺を回るようになり、数年が経った頃です。たまたま長野県に派遣されたのですが、住職がいても法話会を開かないお寺が多い中、珍しく住職のいないお寺を何軒か回りました。その内の一軒は数少ない檀家さんがお金を出し合って本堂を建て直すといえます。もう一軒はTVの「ボツンと一軒家」みたいな山奥の古いお寺でしたが、近くに住むお婆さんが、丁寧にお掃除をして布教師を迎えてくれました。

この時、どんなお寺にもそれぞれの物語があり、合理性だけでは判断出来ないと思いました。少なくとも小さなお寺だから無くてもいいというのは、仏教的では無いと感じたのです。(続)